

白浜町国民健康保険
医療費分析

平成 31 年 2 月
白浜町住民保健課

目 次

第1章 現状と課題

1 白浜町の特性把握	1
2 医療費の状況	2
3 特定健康診査の状況	10
4 介護保険の状況	18
5 ジェネリック医薬品の普及状況	19

第2章 既存の保健事業

1 第1期データヘルス計画の考察	20
2 保健事業の振り返り	22

第1章 現状と課題

1 白浜町の特性把握

白浜町の平成30年1月1日現在の人口は21,806人です。高齢化率(65歳以上)は36.6%であり、周辺市町と比較して高い傾向にあります。また、平成30年10月1日現在の国民健康保険被保険者数は6,498人で、町の人口に占める国民健康保険加入率は30.0%です。

○人口構成概要(平成30年1月1日現在)

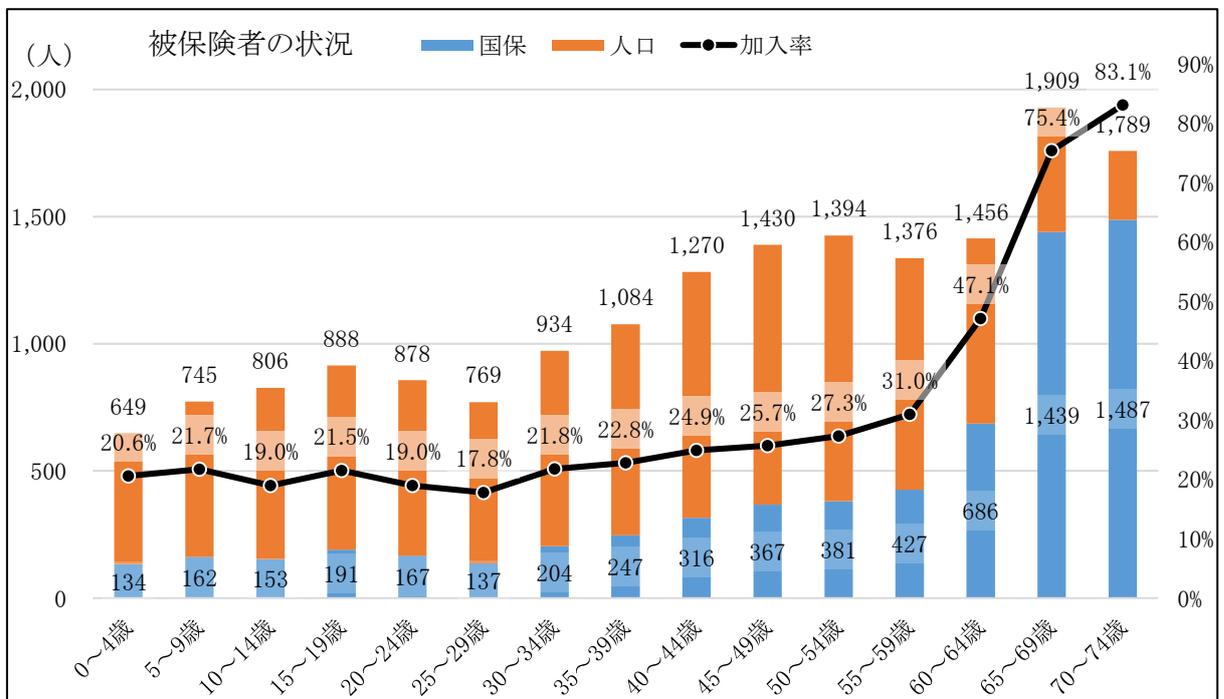
	人口	世帯数	高齢者率	出生数	死亡者数
白浜町	21,806人	11,089世帯	36.6%	138人	322人
和歌山県	975,074人	440,666世帯	31.5%	6,491人	12,793人
全国	127,707,259人	58,007,536世帯	27.2%	964,690人	1,347,710人

○周辺市町の状況(平成30年1月1日現在)

	人口	世帯数	高齢者率	出生数	死亡者数
白浜町	21,806人	11,089世帯	36.6%	138人	322人
田辺市	75,414人	35,443世帯	31.8%	480人	1,039人
上富田町	15,628人	7,088世帯	25.5%	130人	177人
すさみ町	4,140人	2,193世帯	46.6%	12人	92人
みなべ町	13,035人	4,851世帯	30.7%	85人	185人

出典：住民基本台帳人口要覧I(平成30年度版)

○被保険者の状況(平成30年10月1日現在)



出典：指定区別年齢別男女別人口調 年齢別男女別被保険者数調

2 医療費の状況

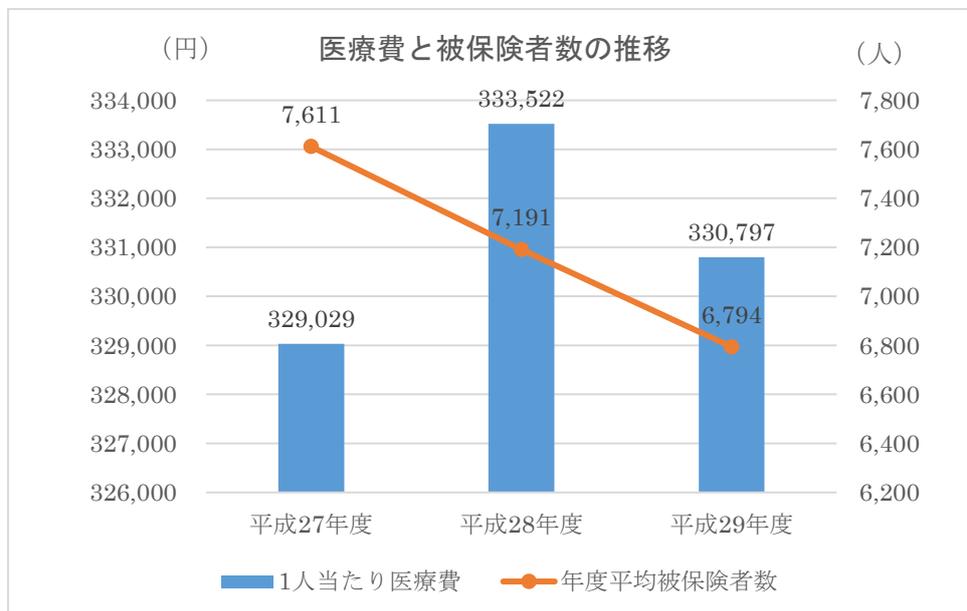
(1)医療費総額と1人当たり医療費

白浜町国民健康保険の医療費総額をみると、平成29年度は22億4,743万円ですが、平成28年度は23億9,836万円となっており、約1億5,093万円の減少となっております。

また、年度平均被保険者数をみると、平成29年度は6,794人ですが、平成28年度は7,191人、平成27年度は7,611人でしたので、1年間に約400人の減少となっております。

次に1人当たり医療費では、平成29年度は330,797円、平成28年度333,522円、平成27年度329,029円となっております。平成27年度から平成28年度にかけて大きく増額したため、平成28年度から平成29年度は減額となっておりますが、上昇傾向にあります。

○1人当たり医療費と年間平均被保険者数の年度別推移



出典：国民健康保険事業状況報告書（事業年報）A表、C表(1)、F表(1)

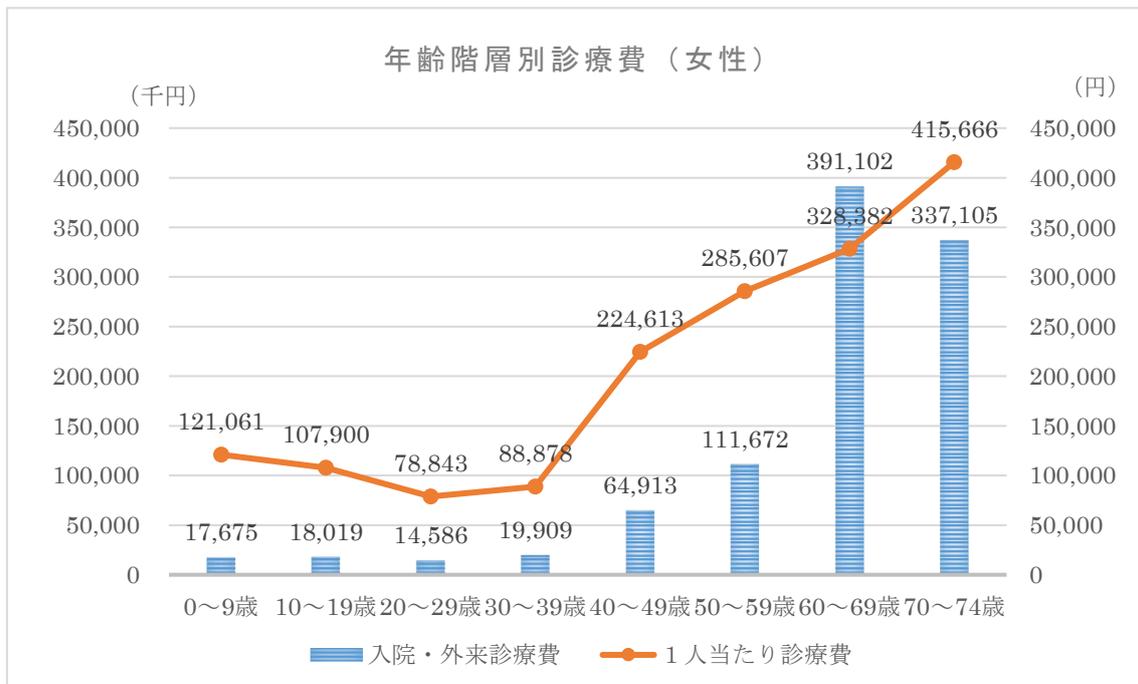
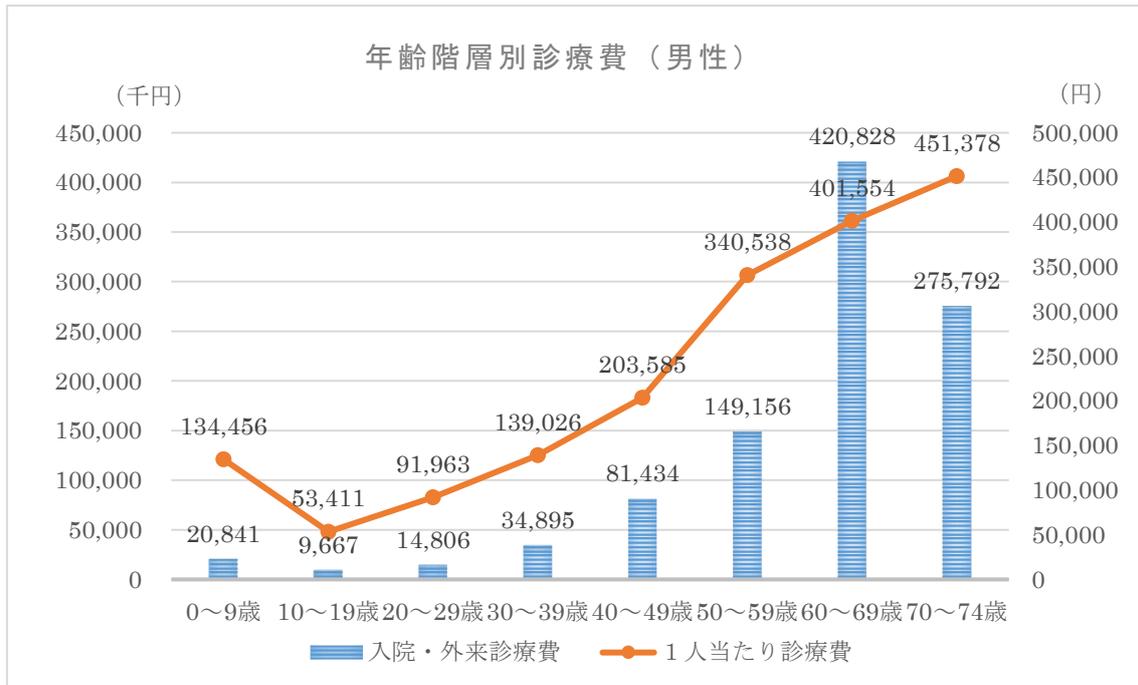
*医療費は、医療給付費全体から療養費等（補装具・柔道整復師・あんま・マッサージ・ハリ・キウウ・診療費等）を除く金額

*1人当たり医療費＝医療費（療養の給付等）／年度平均被保険者数

(2)平成 29 年度の年齢階層別の入院・外来診療費

白浜町国民健康保険の平成 29 年度診療分の 1 人当たり診療費を年齢階層別にみると、70～74 歳の男性が 451,378 円、女性が 415,666 円と最も高く、0～9 歳を除くと年代が高くなるほど診療費も高くなっています。

また、男女を比較すると、女性は、10～19 歳、40～49 歳で男性の同年代より高くなっております。

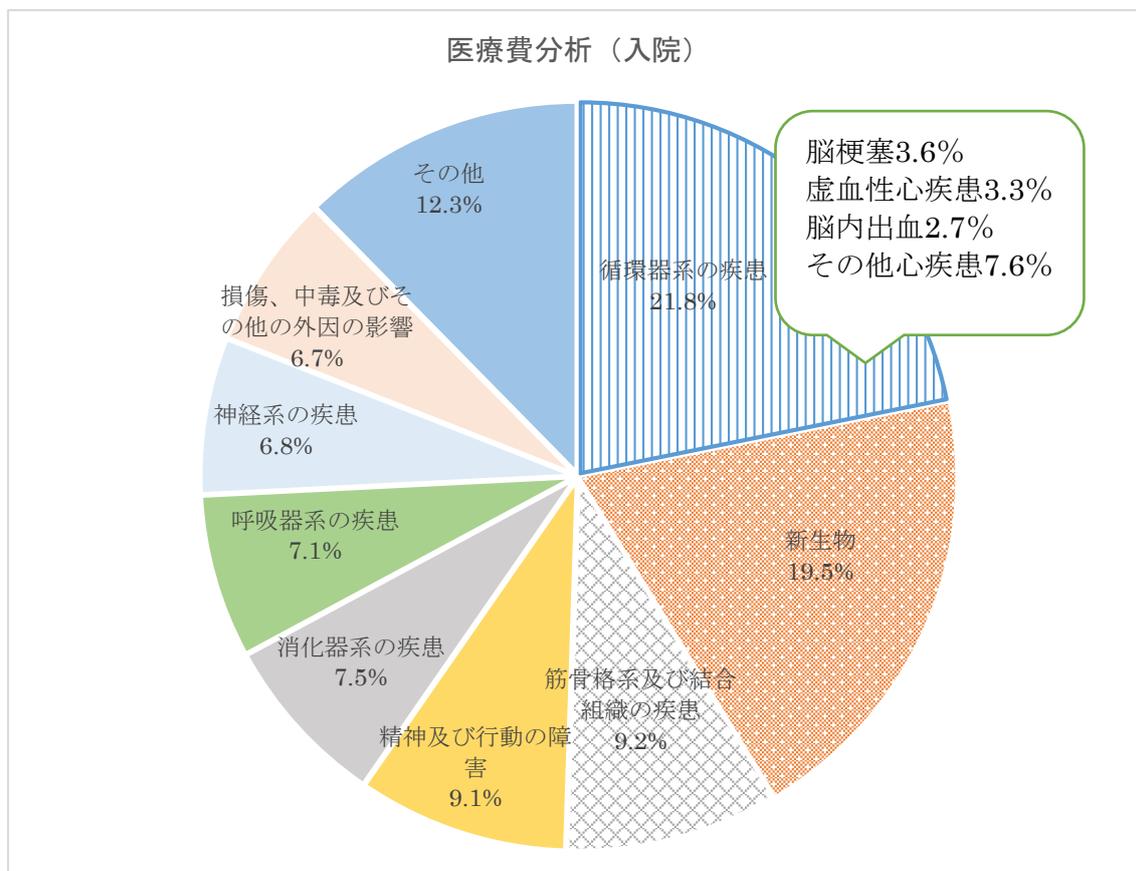


出典：KDB システム「地域の全体像の把握」作成年月：平成 29 年度（累計）医療 * 歯科は含まない

(3)平成 29 年度の疾病分類別医療費の分析

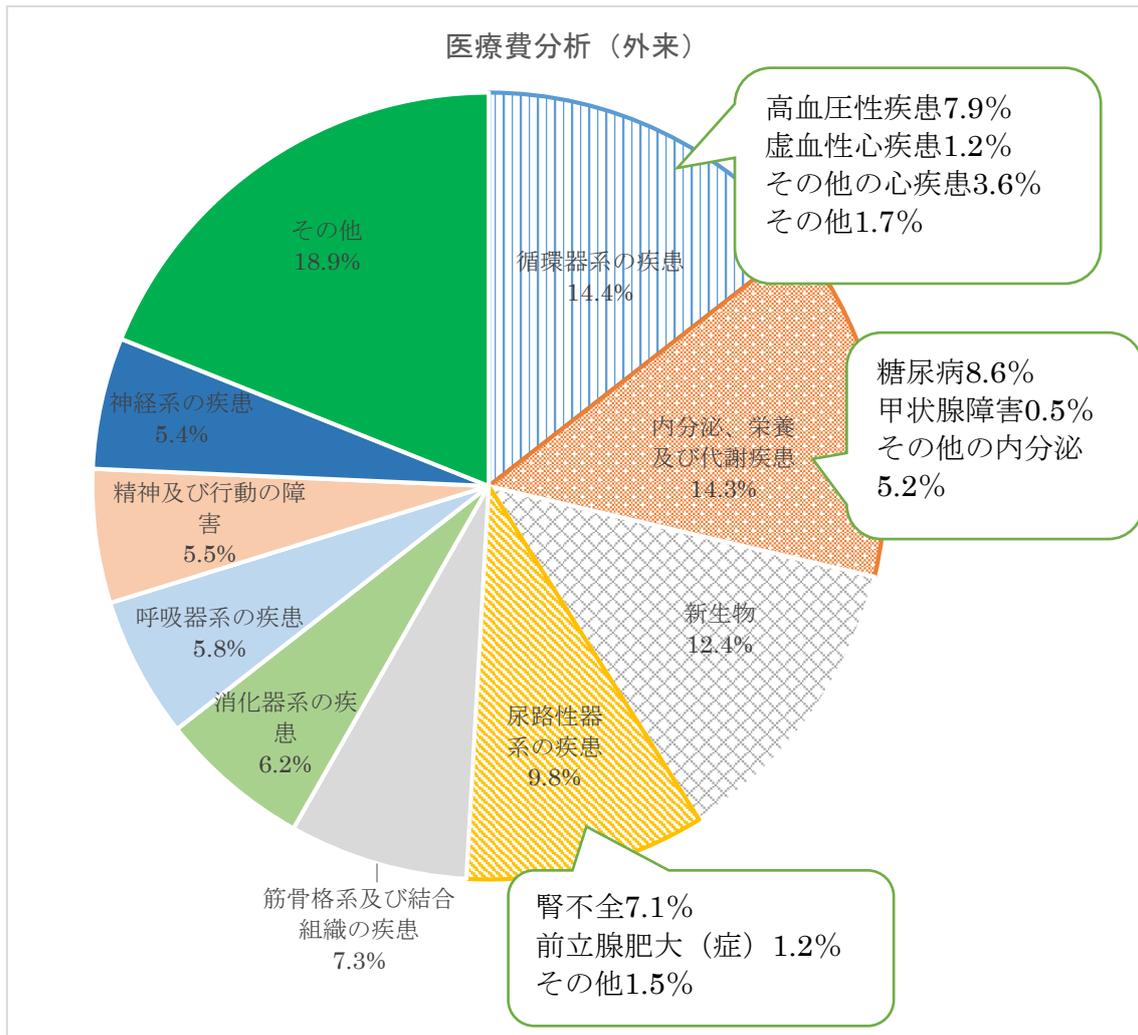
平成 29 年度疾病大分類別の医療費割合をみると、循環器系の疾患が入院では 21.8%、外来では 14.4%とともに最も高くなっています。循環器系の疾患の内訳をみると、入院（21.8%）のうち脳梗塞が 3.6%、虚血性心疾患が 3.3%、脳内出血が 2.7%の順に高くなっており、外来（14.4%）では高血圧性疾患が 7.9%で 5 割以上を占めています。

外来の循環器系の疾患（14.4%）に次いで内分泌、栄養及び代謝疾患が 14.3%、新生物が 12.4%、尿路性器系の疾患が 9.8%の順で医療費割合の高い疾患となっております。内分泌、栄養及び代謝疾患（14.3%）の内訳をみると糖尿病が 8.6%で約 6 割を占めており、尿路性器系の疾患（9.8%）の内訳をみると腎不全が 7.1%で 7 割以上を占めています。



大分類別疾患	疾病別医療費	医療費割合
循環器系の疾患	177,569,340円	21.8%
新生物	159,207,020円	19.5%
筋骨格系及び結合組織の疾患	75,307,400円	9.2%
精神及び行動の障害	74,136,470円	9.1%
消化器系の疾患	61,442,410円	7.5%
呼吸器系の疾患	57,513,650円	7.1%
神経系の疾患	55,022,460円	6.8%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	54,937,300円	6.7%
その他	99,686,100円	12.3%
合計	814,822,150円	100%

出典：KDB システム「医療費分析(2)大、中、細小分類」作成年月：平成 29 年度（累計）



大分類別疾患	疾病別医療費	医療費割合
循環器系の疾患	167,581,470円	14.4%
内分泌、栄養及び代謝疾患	166,449,960円	14.3%
新生物	145,179,590円	12.4%
尿路性器系の疾患	113,942,260円	9.8%
筋骨格系及び結合組織の疾患	84,885,280円	7.3%
消化器系の疾患	72,407,680円	6.2%
呼吸器系の疾患	67,916,170円	5.8%
精神及び行動の障害	64,229,960円	5.5%
神経系の疾患	63,624,540円	5.4%
その他	221,393,820円	18.9%
合計	1,167,610,730円	100%

出典：KDB システム「医療費分析(2)大、中、細小分類」作成年月：平成 29 年度（累計）

(4)平成 29 年度の疾病細小分類別医療費分析

平成 29 年度の疾病細小分類別の入院及び外来の合計医療費をみると、生活習慣病である糖尿病が 5.4%、高血圧症が 5.0%、慢性腎不全（透析あり）が 4.5%と上位を占めています。

細小分類別疾患	医療費	構成比	順位
糖尿病	107,480,090円	5.4%	1位
高血圧症	98,350,390円	5.0%	2位
統合失調症	92,149,660円	4.6%	3位
慢性腎不全(透析あり)	88,447,680円	4.5%	4位
肺がん	64,504,650円	3.3%	5位
脂質異常症	56,511,570円	2.9%	6位
貧血	48,697,140円	2.5%	7位
不整脈	42,581,780円	2.1%	8位
大腸がん	36,342,020円	1.8%	9位
脳梗塞	35,572,580円	1.8%	10位

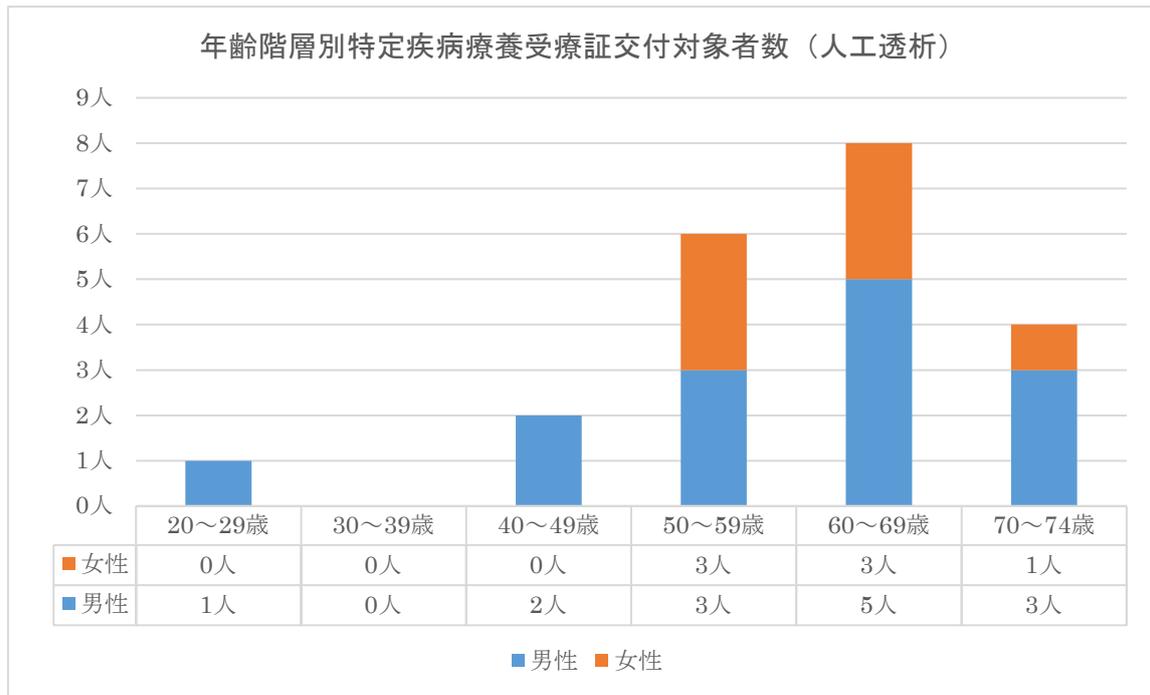
出典：KDB システム「医療費分析(2)大、中、細小分類」作成年月：平成 29 年度（累計）

* 構成比は、全体の医療費（入院＋外来）総計全体に対して占める割合

(5)人工透析の状況

人工透析者数は、平成 29 年度が 21 人、平成 28 年度が 22 人でしたので、1 人減少しています。異動の内訳は年間の新規申請者数が 5 人、後期高齢者医療制度への移行等で国民健康保険を喪失者数が 6 人です。

○平成 29 年度年齢階層別特定疾病療養受療証交付対象者数



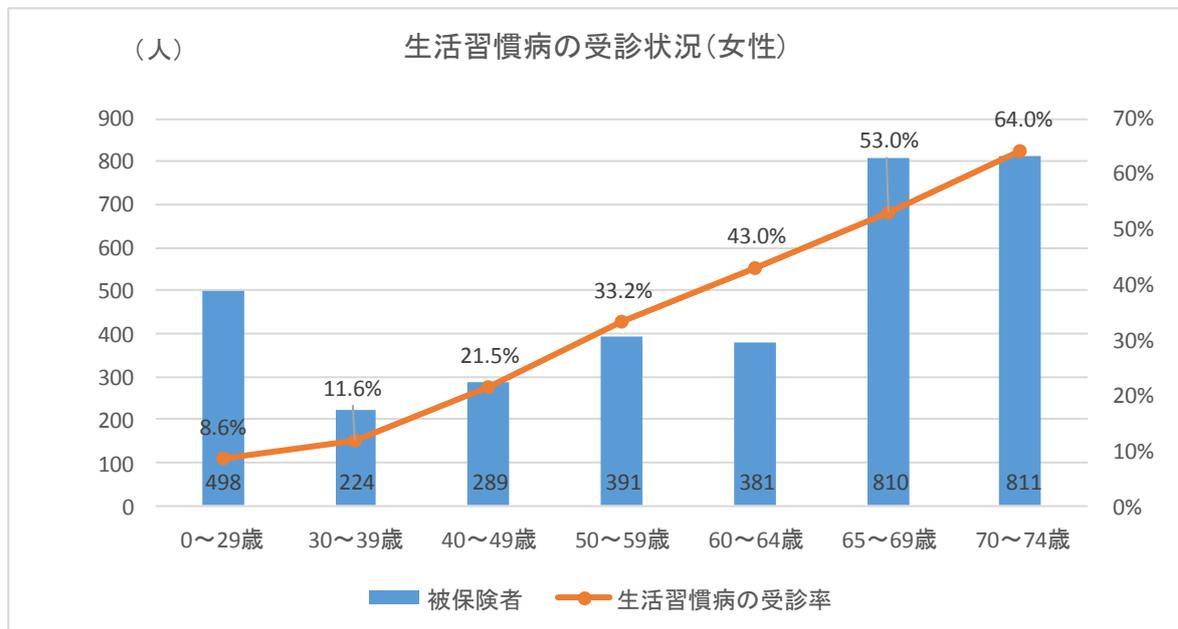
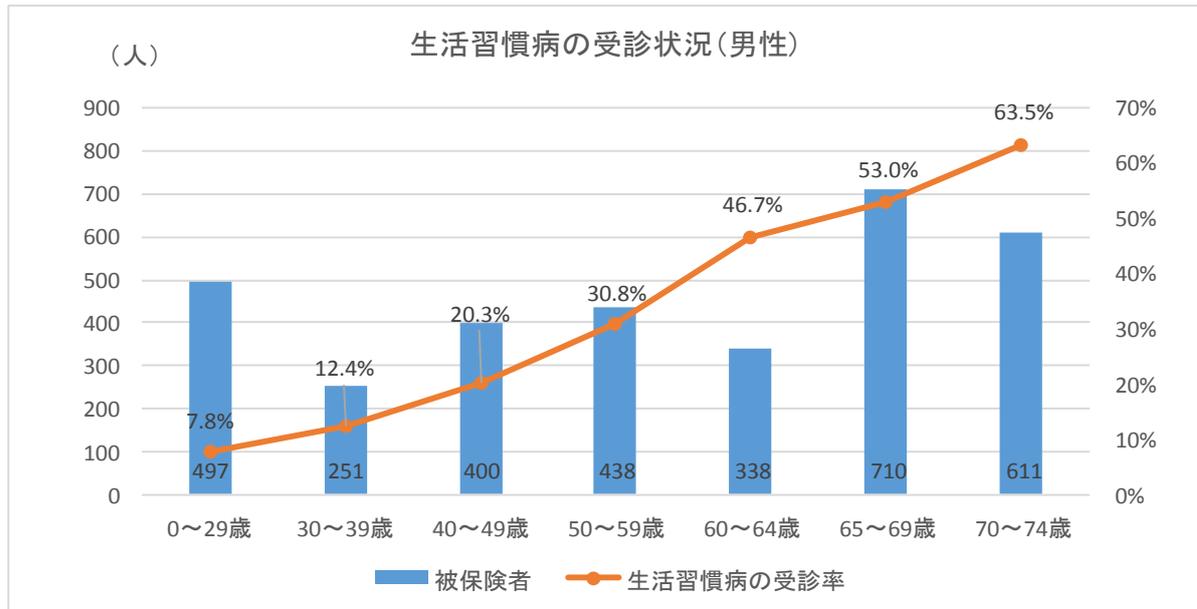
出典：国民健康保険特定疾病療養受療証交付申請

KDB システム厚生労働省様式（様式 2-2）人工透析患者一覧表

(7)生活習慣病の状況

①生活習慣病の受診率の状況

平成30年3月診療分のレセプトから生活習慣病の受診状況をみると、男性女性ともに年齢が上がるにつれて受診率が高くなっており、65歳以上では被保険者の半数以上が生活習慣病で医療機関を受診している状況です。



出典： KDB システム厚生労働省様式（様式3-1）生活習慣病全体のレセプト分析

作成年月：平成30年5月

②生活習慣病全体のレセプト分析

生活習慣病合計を疾患別にみると、高血圧症（1,509人）が最も多く、次いで脂質異常症（1,118人）、糖尿病（656人）となっております。

男女別にみると、脂質異常症（男性463人 女性655人）以外の疾患は、男性が女性より多い状況です。

また、生活習慣病合計を年代別にみると40歳代から患者が増えており、40～49歳143人、50～59歳265人、60～69歳1,127人、70～74歳907人と年齢が高くなるほど大幅に増加する傾向にあります。

○疾患別レセプト分析

男性	生活習慣病	脳血管疾患	虚血性心疾患	人工透析	糖尿病	高血圧症	高尿酸血症	脂質異常症
0～29歳	39人	0人	1人	0人	0人	1人	0人	0人
30～39歳	31人	1人	1人	1人	1人	6人	2人	5人
40～49歳	81人	6人	1人	1人	15人	27人	15人	19人
50～59歳	135人	12人	17人	3人	31人	76人	17人	43人
60～69歳	534人	71人	81人	5人	179人	378人	104人	220人
70～74歳	388人	71人	76人	1人	137人	284人	79人	176人
合計	1,208人	161人	177人	11人	363人	772人	217人	463人

女性	生活習慣病	脳血管疾患	虚血性心疾患	人工透析	糖尿病	高血圧症	高尿酸血症	脂質異常症
0～29歳	43人	0人	0人	0人	5人	1人	1人	1人
30～39歳	26人	1人	0人	0人	2人	2人	0人	0人
40～49歳	62人	1人	3人	0人	3人	11人	1人	6人
50～59歳	130人	6人	10人	2人	22人	46人	2人	36人
60～69歳	593人	34人	59人	3人	126人	335人	12人	307人
70～74歳	519人	47人	81人	0人	135人	342人	22人	305人
合計	1,373人	89人	153人	5人	293人	737人	38人	655人

合計	生活習慣病	脳血管疾患	虚血性心疾患	人工透析	糖尿病	高血圧症	高尿酸血症	脂質異常症
0～29歳	82人	0人	1人	0人	5人	2人	1人	1人
30～39歳	57人	2人	1人	1人	3人	8人	2人	5人
40～49歳	143人	7人	4人	1人	18人	38人	16人	25人
50～59歳	265人	18人	27人	5人	53人	122人	19人	79人
60～69歳	1,127人	105人	140人	8人	305人	713人	116人	527人
70～74歳	907人	118人	157人	1人	272人	626人	101人	481人
合計	2,581人	250人	330人	16人	656人	1,509人	255人	1,118人

出典：KDB システム厚生労働省様式（様式3-1）生活習慣病全体のレセプト分析

作成年月：平成30年5月

*表に記載以外の疾患や重複している場合あり

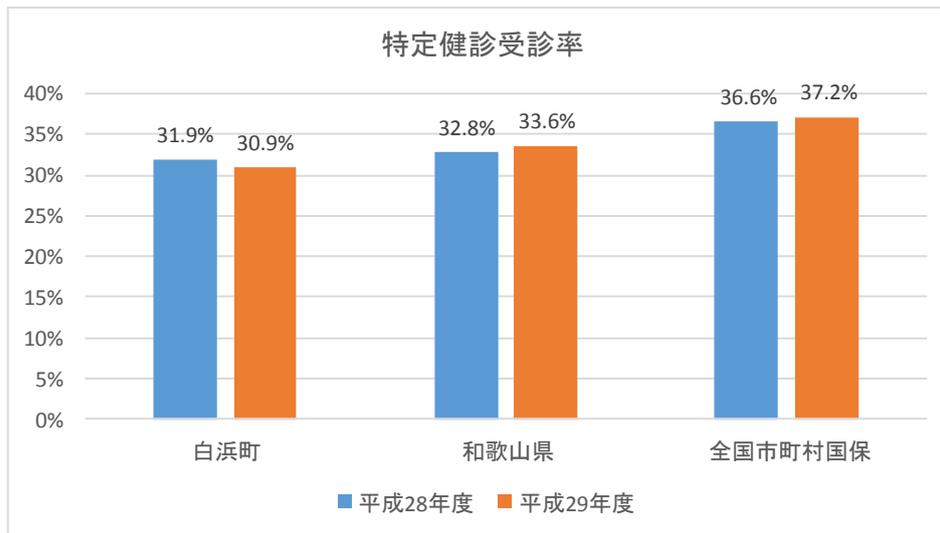
3 特定健康診査の状況

(1)特定健康診査の受診状況

①特定健康診査の受診率

平成 29 年度特定健康診査（以下、「特定健診」という。）の受診率は 30.9%となっており、平成 28 年度 31.9%より減少し、和歌山県や全国平均と比較しても低い状況です。

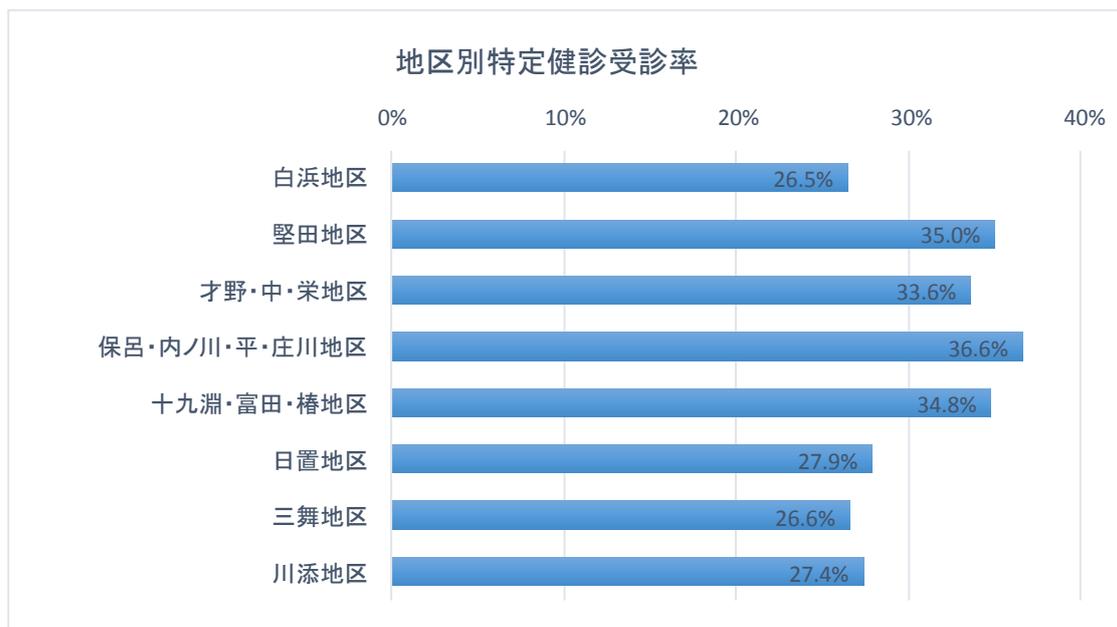
○特定健診受診率



出典：法定報告（速報値）

②地区別特定健診受診率

特定健診受診率を地区別で見ると、白浜地区と日置川地区が低く、富田地区が高い状況です。

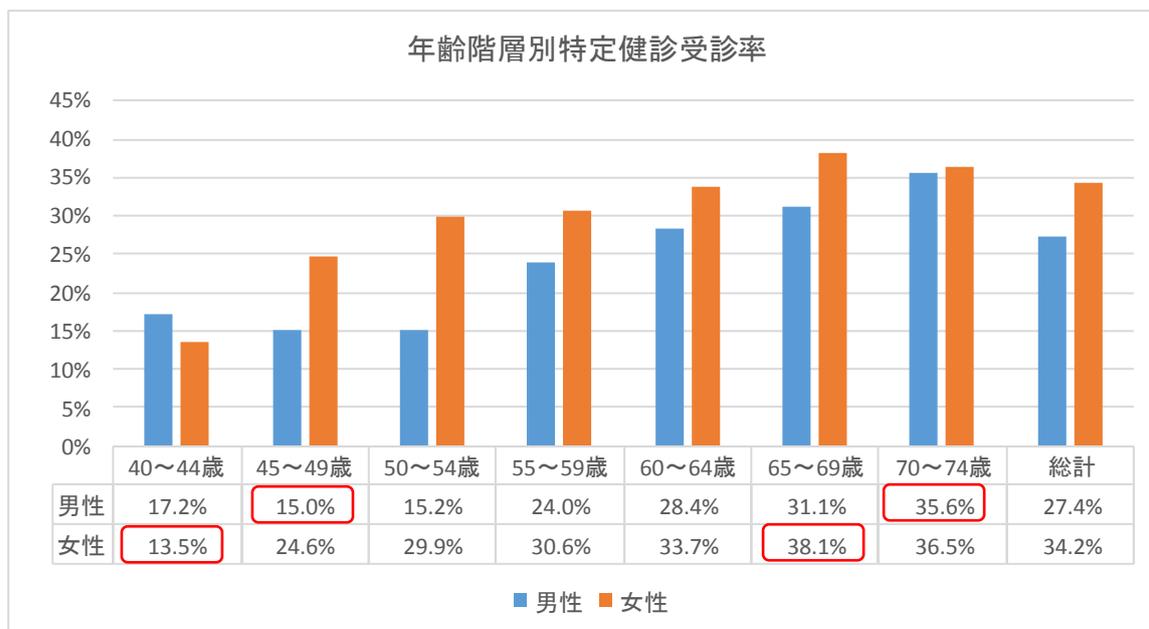


出典：KDB システム「地域の全体像の把握」作成年月：平成 29 年度（累計）健診

③年齢階層別特定健診受診率

特定健診受診率を年齢階層別でみると、男性は70～74歳が35.6%、女性は65～69歳が38.1%と最も高く、男性は45～49歳が15.0%、女性は40～44歳が13.5%と最も低くなっており、年齢が高くなるほど受診率が高くなる傾向にあります。

また、特定健診受診率を男女別でみると、男性が27.4%、女性が34.2%と女性が高い状況です。



出典：法定報告（速報値）

④特定健診を受けない理由

○健診調査票（特定健診受診券と同時に個人通知）による【受けない】理由

理由	人数
病院で同様の検査を受けている	39人
職場等で健診の機会がある	51人
個別健診受診予定	50人
人間ドック受診予定	14人
町外在住	3人
入院中	1人

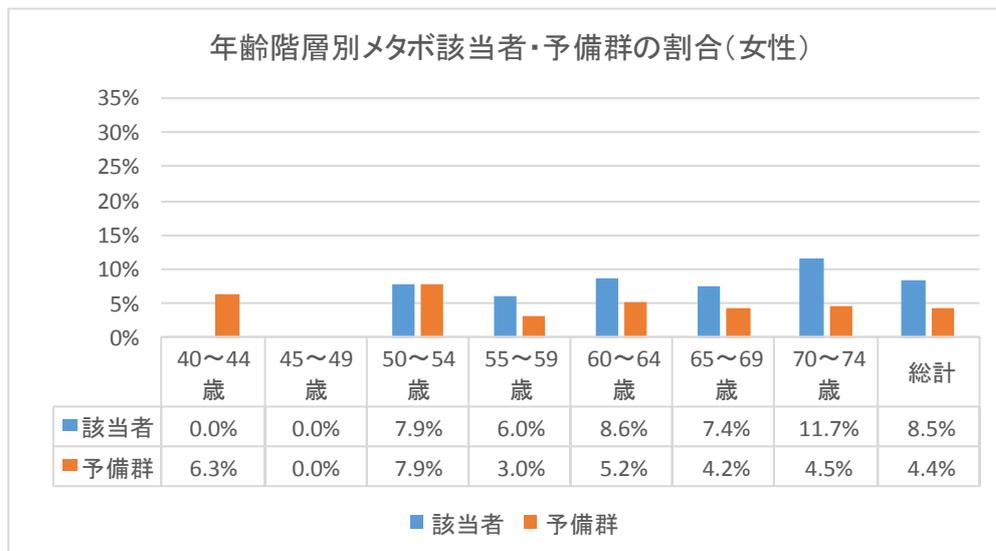
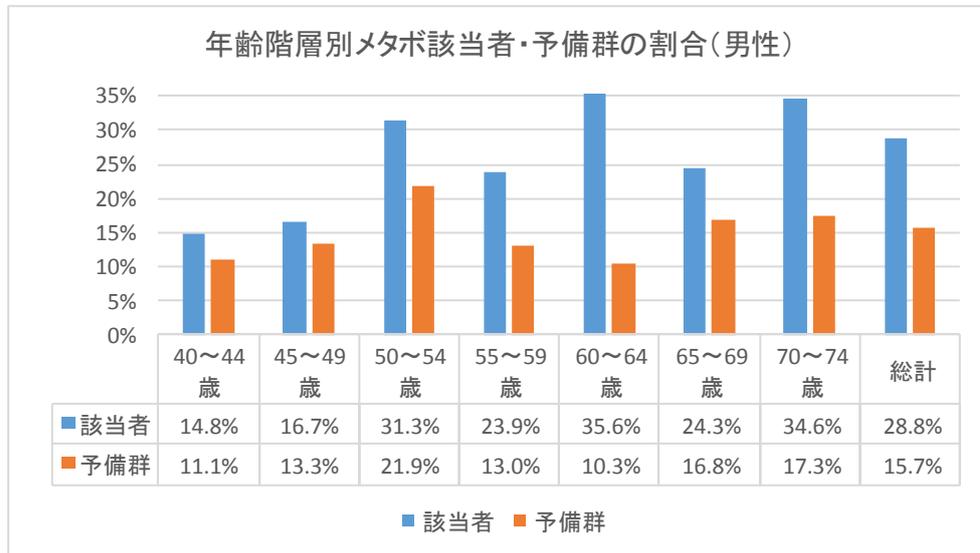
注：健診調査票は【受けない】との回答でも、その後受診した方は除く。

○受診勧奨による【受けない】理由

理由	人数
医療機関通院中	336人
関心があるが健診申込に至らない	230人
受診勧奨時に集団健診申込み	222人
無関心	42人
人間ドック受診予定	41人
個別健診受診予定	22人

(2)メタボリックシンドローム該当者・予備群の状況

メタボリックシンドローム（以下、「メタボ」という。）該当者・予備群は、50歳代から増えており、メタボ該当者が予備群より多い状況です。男女別でみると、男性が女性を大幅に上回っております。



出典：法定報告（速報値）

*メタボ該当者は、①にあてはまり、②から④で2つ以上該当

*メタボ予備群は、①にあてはまり、②から④で1つ該当

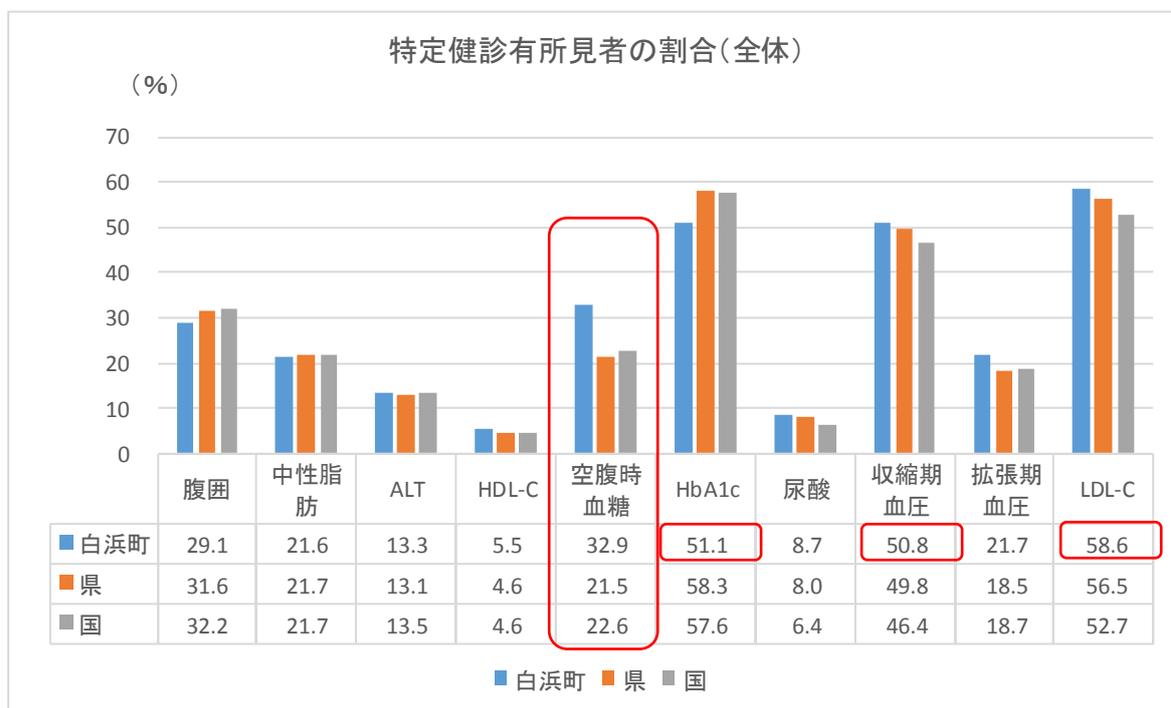
項目	内容
①腹部肥満	臍の高さでの腹囲が男性85cm以上、女性90cm以上
②脂質	中性脂肪150mg/dl以上 HDLコレステロール40mg未満(いずれか、または両方)
③血圧	収縮時血圧(最高血圧)130mmHg以上 拡張時血圧(最低血圧)85mmHg以上(いずれか、または両方)
④血糖値	空腹時血糖110mg/dl以上

③特定健診受診者のうち有所見者の状況

①特定健診有所見者の割合

平成 29 年度の特定健診有所見者の割合は、LDL コレステロールが 58.6%、HbA1c が 51.1%、収縮期血圧が 50.8%、空腹時血糖が 32.9%の順に高くなっています。

特に、空腹時血糖の割合は、県や国と比較しても大幅に上回っていますが、HbA1c の割合が県や国と比較して低いことから矛盾が生じます。原因として白浜町内の医療機関では空腹時血糖と HbA1c 両方の検査数値を入力している場合が多く、他都道府県や他市町村では HbA1c だけを入力している場合が多いことが考えられます。



出典： KDB システム厚生労働省様式（様式 5-2）健診有所見者状況（男女別・年代別）

作成年月：平成 29 年度

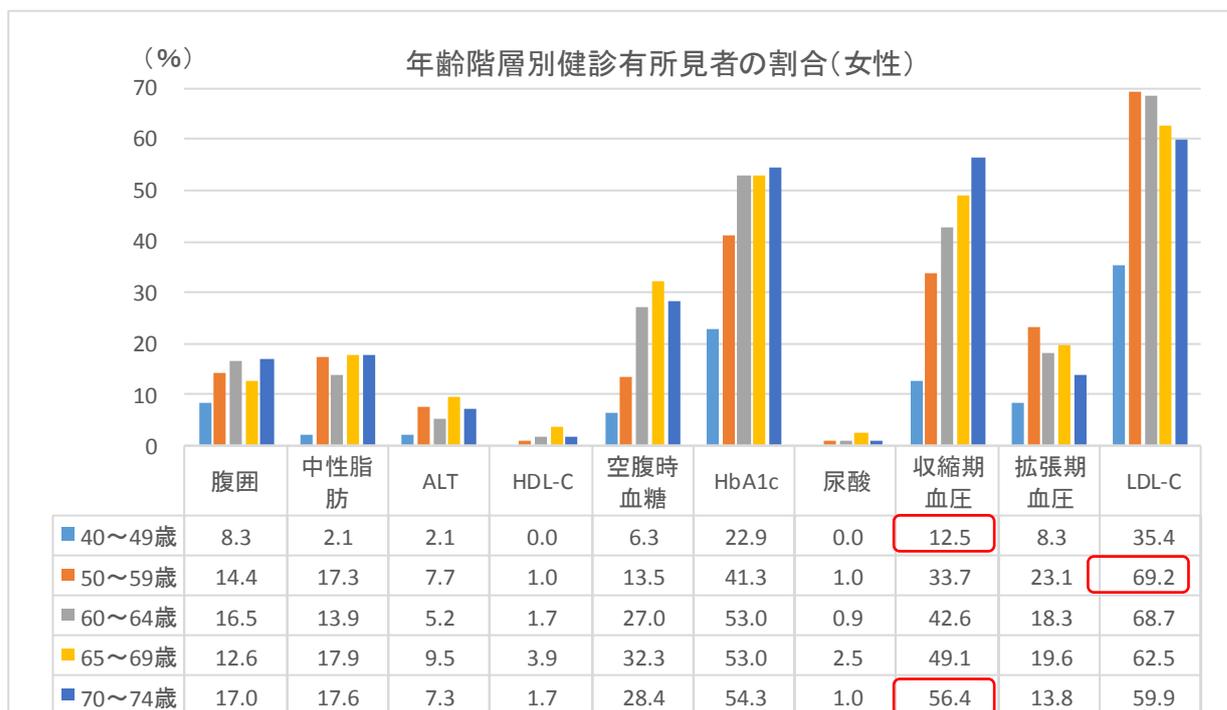
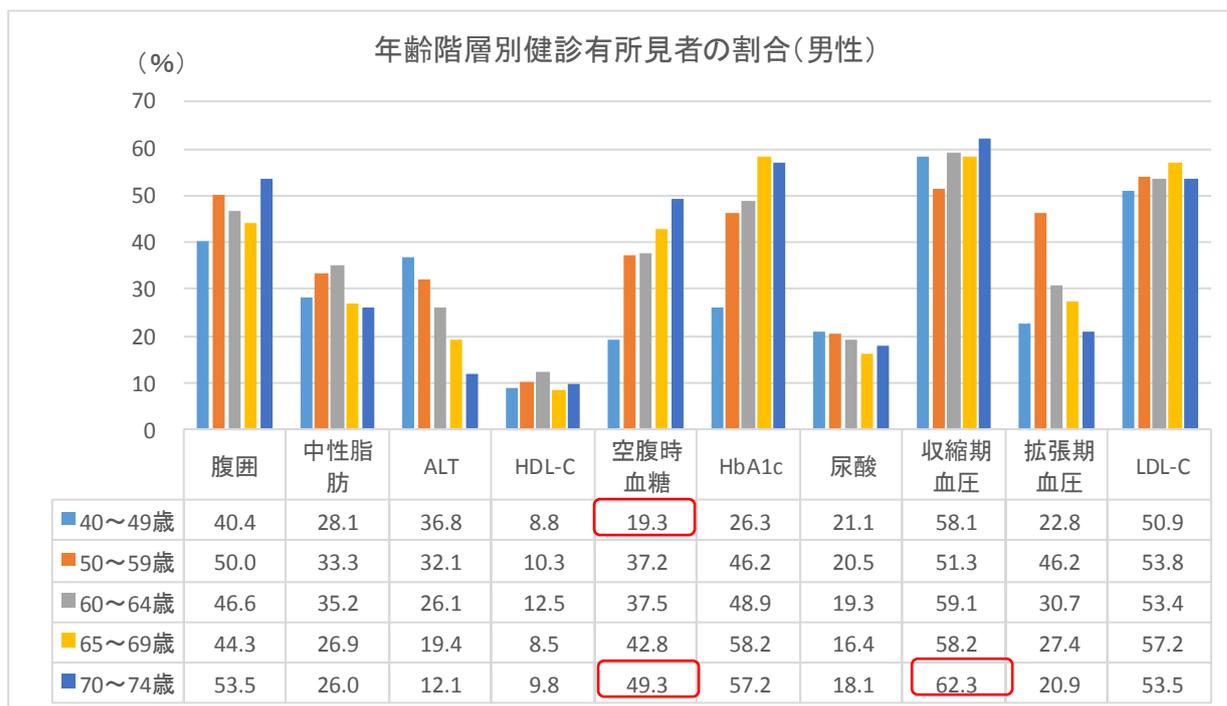
②年齢階層別特定健診有所見者の割合

平成 29 年度の特定健診有所見者の割合を年齢階層別で見ると、男性では 70～74 歳の収縮期血圧 62.3%が最も高く、空腹時血糖、HbA1c の割合は、年齢が高くなるほど高くなっており、ALT の割合は、年齢が低くなるほど低くなっております。

特に、空腹時血糖の割合は 40～49 歳で 19.3%ですが、70～74 歳では 49.3%まで増加しています。

女性では 50～59 歳の LDL コレステロール 69.2%が最も高く、HbA1c、収縮期血圧の割合は、年齢が高くなるほど高くなっています。

特に、収縮期血圧の割合は、40～49 歳で 12.5%ですが、70～74 歳では 56.4%まで増加しています。



出典： KDB システム厚生労働省様式（様式 5-2）健診有所見者状況（男女別・年代別）

作成年月：平成 29 年度

(4)質問票調査の状況

平成29年度質問票の生活習慣病の状況をみると、運動習慣では「1回1時間以上の運動習慣なし」が53.2%で、県49.6%、国46.9%と比較して高くなっています。

飲酒の状況では、「飲酒頻度（毎日）」が29.9%で、和歌山県27.9%、全国24.9%と比較して高くなっています。

改善意欲では、「生活習慣改善意欲なし」が34.1%で、和歌山県32.0%、全国29.8%と比較して高い状況です。

○質問票の状況

(単位：%)

	白浜町	和歌山県	全国
喫煙	12.6	12.8	13.3
20歳時体重から10kg以上増加	33.6	33.1	32.4
1回30分以上の運動習慣なし	60.2	60.6	58.4
1回1時間以上の運動習慣なし	53.2	49.6	46.9
歩行速度遅い	50.1	49.9	50.2
1年間で体重増減3kg以上	20.9	21.2	19.5
食事速度速い	28.4	27.1	25.6
食事速度普通	62.1	64.5	65.9
食事速度遅い	9.5	8.4	8.5
週3回以上就寝前夕食	13.5	13.2	14.6
週3回以上夕食後間食	13.6	16.2	11.9
週3回以上朝食を抜く	8.1	7.0	8.2
飲酒頻度（毎日）	29.9	27.9	24.9
飲酒頻度（時々）	18.9	18.4	22.0
飲酒頻度（飲まない）	51.2	53.7	53.1
1日飲酒量（1合未満）	64.7	67.1	65.2
1日飲酒量（1～2合）	22.4	21.9	23.3
1日飲酒量（2～3合）	10.0	8.7	8.9
1日飲酒量（3合以上）	2.9	2.3	2.6
睡眠不足	25.6	23.7	25.2
生活習慣改善意欲なし	34.1	32.0	29.8
生活習慣改善意欲あり	24.6	30.0	27.0
生活習慣改善意欲ありかつ始めてる	11.9	12.1	13.3
生活習慣改善取り組み済み6ヶ月未満	8.8	7.6	8.1
生活習慣改善取り組み済み6ヶ月以上	20.5	18.3	21.7
保健指導利用しない	61.9	58.0	59.5

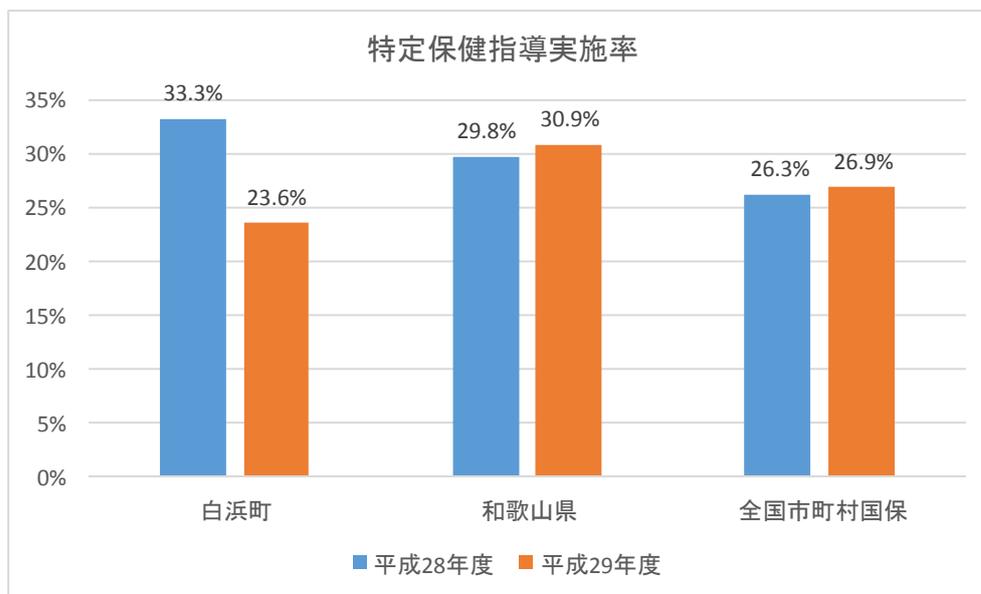
出典：KDBシステム 質問票調査の経年比較

(5)特定保健指導の状況

①特定保健指導実施率

平成 29 年度特定保健指導の実施率は 23.6%となっており、平成 28 年度 33.3%より減少し、和歌山県や全国平均と比較しても低い状況です。

○特定保健指導実施率



出典：法定報告（速報値）

②積極的支援と動機づけ支援の実施状況

平成 29 年度積極的支援の終了率は 16.7%となっており、平成 28 年度 23.4%より減少しています。また、平成 29 年度動機づけ支援の終了率も 26.5%となっており、平成 28 年度 37.2%より減少しています。

○平成 29 年度積極的支援・動機づけ支援の実施状況

	積極的支援	動機付け支援
対象者	42人	102人
受診者に占める対象者の割合	2.8%	6.9%
利用者数	9人	27人
利用者の割合	21.4%	26.5%
終了者数	7人	27人
終了者の割合	16.7%	26.5%

出典：法定報告（速報値）

③リスク因子の状況

リスク因子を数別にみると、血圧が含まれている階層が最も多い状況です。また、血糖・血圧・脂質のリスク3因子の保有者は、27人です。

○積極的支援・動機づけ支援対象者のリスク因子別保有状況

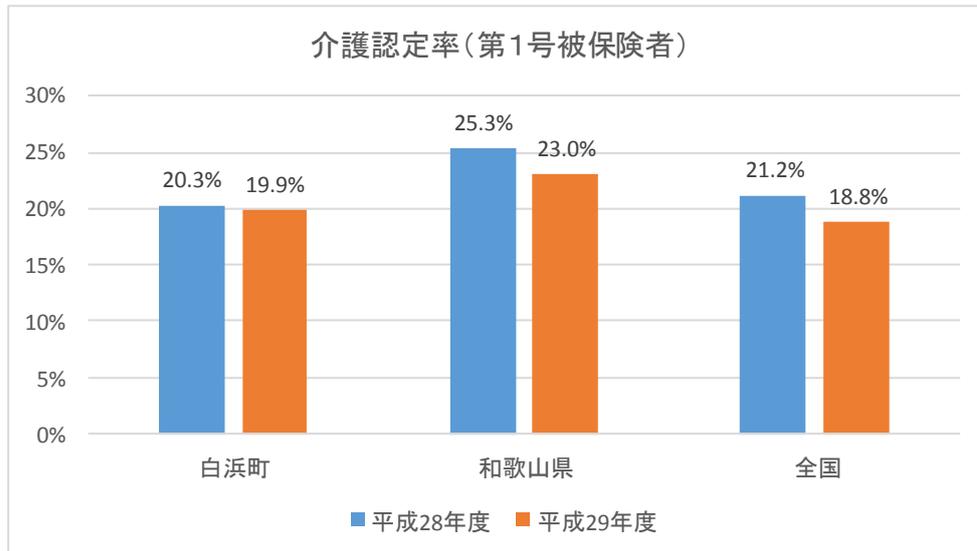
リスク因子数	リスク因子の組合せ	積極的支援	動機付け支援 (積極的～動機付) (65歳～)	動機付け支援
因子数4	血糖＋血圧＋脂質＋喫煙	3人	3人	
因子数3	血糖＋血圧＋脂質	8人	13人	
	血糖＋血圧＋喫煙	1人	1人	
	血糖＋脂質＋喫煙	2人	2人	
	血圧＋脂質＋喫煙	2人	3人	
因子数2	血糖＋血圧	6人	15人	1人
	血糖＋脂質	0人	3人	1人
	血圧＋脂質	10人	8人	3人
	血糖＋喫煙	1人	2人	1人
	血圧＋喫煙	4人	1人	1人
	脂質＋喫煙	5人	1人	0人
因子数1	血糖			13人
	血圧			22人
	脂質			8人

出典：法定報告（速報値）

4 介護保険の状況

(1)介護認定率（第1号被保険者）

平成29年度介護認定率は19.9%で平成28年度20.3%より減少しており、和歌山県23.0%と比較して低く、全国18.8%と比較して高くなっています。



出典：KDB システム「地域の全体像の把握」作成年月：平成28年度（累計）介護

KDB システム「地域の全体像の把握」作成年月：平成29年度（累計）介護

(2)要介護認定理由にかかる疾病（第2号被保険者）

第2号被保険者の介護認定理由をみると、生活習慣病である脳血管疾患が48.3%で最も多い状況です。

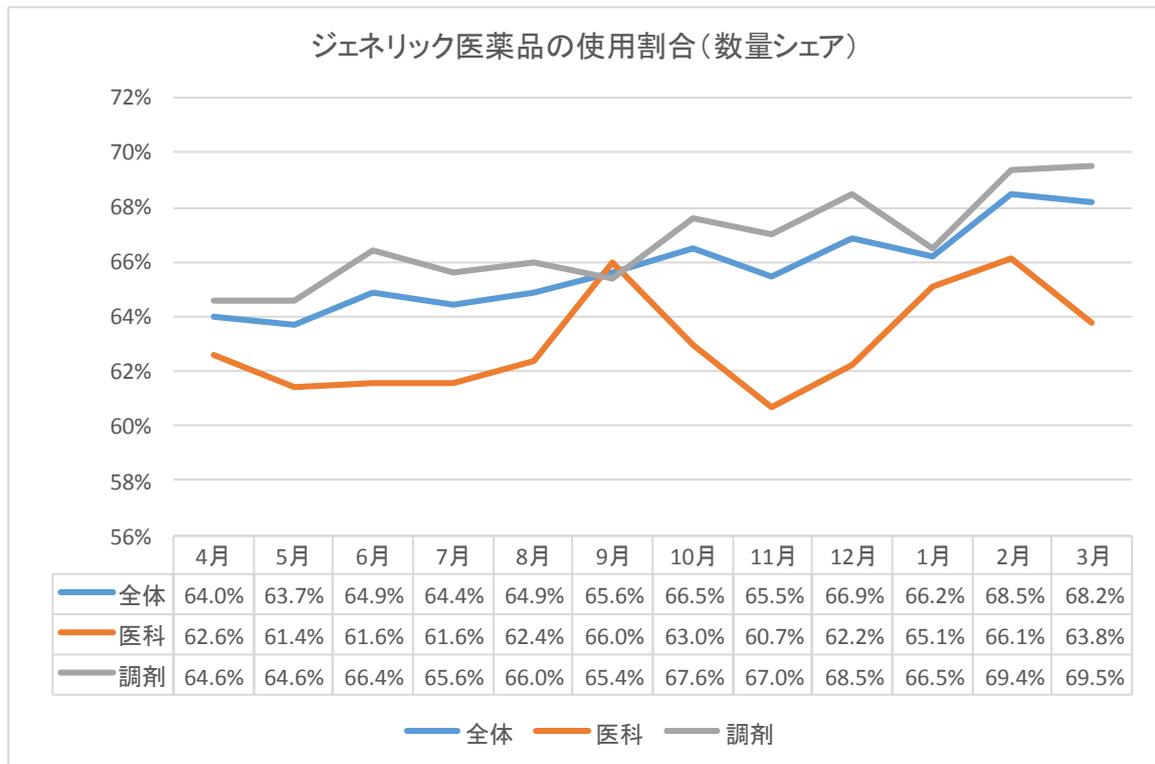
がん (末期)	パーキンソン病 関連	認知症 (初老期)	脊髄小脳 変性症	脳血管 疾患	その他	合計
3人	3人	2人	2人	14人	5人	29人
10.3%	10.3%	6.9%	6.9%	48.3%	17.3%	100.0%

出典：白浜町介護保険事業システム

5 ジェネリック医薬品の普及状況

平成29年度のジェネリック医薬品の使用割合は65.7%で、平成28年度62.8%より2.9%向上しています。

○平成29年度ジェネリック医薬品の使用割合（数量シェア）



出典：電子帳票システム 数量シェア集計表（合計（国保一般+退職））

数量シェアとは、「後発医薬品のある先発医薬品」及び「後発医薬品」を分母とした「後発医薬品」の数量のシェアをいう。

第2章 既存の保健事業

1 第1期データヘルス計画の考察

(1)特定健診の未受診者対策

平成29年度特定健診受診率は30.9%となっており、平成28年度31.9%より減少し、和歌山県や全国平均と比較しても低い状況です。

受診率減少の原因としては、平成28年度の医療機関での受診による結果情報提供者148人でしたが、平成29年度72人と減少したことによると考えられます。

学校、イベント会場等での「まちかど健康相談」では、受診啓発やチラシの配布等により受診啓発を強化し周知を図るとともに、40～50代の未受診者や前年度受診者で今年度未受診者に電話での勧奨を実施し、受診率の向上に努めました。

また、継続受診の必要性を啓発するため、集団健診受診者全員に「結果説明会」の案内を送付し、参加者には個人にあった栄養指導・運動指導を行いました。

引き続き、健診受診や継続受診の必要性を啓発しながら、平成30年度からはインセンティブを活用し若年層の受診率向上を図る必要があります。

*特定健診未受診の理由が「医療機関で通院中」の方には、結果提供依頼を送付しています。

町が契約している医療機関では、治療の検査項目で健診に不足する項目があれば、医療機関の判断によりその項目（身体測定等）を追加実施した上で結果提供を受けます。契約外の医療機関では、受診者から結果提供を受けます。

(2)特定保健指導の利用勧奨

平成29年度特定保健指導の実施率は23.6%となっており、平成28年度33.3%より減少し、和歌山県や全国平均と比較しても低い状況です。

集団健診受診による特定保健指導未利用者に対しては、全員に電話による利用勧奨を実施しており、日中不在者が多い中、夕方での連絡や健診時に携帯電話番号を聞くなど、保健指導の利用につなげるように取り組みました。

平成30年度からは利用啓発に工夫をし、特定保健指導の必要性を周知するとともに、参加者には計測の実施や粗品の提供などのインセンティブを活用し、利用に結びつくような取り組みも必要です。

特に白浜はまゆう病院に委託している個別健診・人間ドック受診者に対する利用勧奨も強化する必要があります。

(3)生活習慣病予防事業

特定健診の結果や医療費の状況から、白浜町は「糖尿病」に重点を置いた対策を講じており、平成28年度は「糖尿病予防教室」を平成29年度は「腎臓病予防教室」を実施しました。

糖尿病・腎臓病予防教室の参加者に関しては、参加者数の増加や翌年度の検査結果においての検査数値改善傾向と一定の効果はみられますので、より多く参加できるよう教室の

運営や日時等を検討していく必要があります。

また、透析導入患者の原因疾患は糖尿病性腎症が最も多く、医療費全体からみても大きな課題であるため、平成30年度からは糖尿病性腎症等の重症化予防に重点を置いた対策も必要です。

このような現状を踏まえ、特定保健指導の対象にはならないが、血圧・血糖・腎機能の検査項目の基準値を超える健診受診者に対しても、引き続き文書による受診勧奨及び保健指導を行い、適切な医療受診につながるよう支援し予防に努めます。

2 保健事業の振り返り（第1期データヘルス計画）

事業名	事業目的	事業内容	目標値 平成29年度末	実
				平成28年度
特定健診	メタボに着目し、内臓脂肪の蓄積を把握することにより、糖尿病、高血圧症、脂質異常症等の生活習慣病を予防する。	年度当初に、40～74歳までの国民健康保険加入者全員に個別通知を送付する。 町内の会場で集団健診を実施し、町内外の医療機関において個別健診の委託をする。	受診率を35%とする。	個別通知数 5,422通 結果提供依頼送付数 575通 集団健診実施数 14回 委託個別医療機関 31ヶ所
特定健診未受診者勧奨	特定健診の受診率を向上させる。	特定健診未受診者に保健師から訪問及び電話による受診勧奨を行う。 集団健診前には前年度受診者のうち今年度未受診者を対象に電話で受診勧奨をする。 40歳・50歳を対象に電話による受診勧奨をする。	受診率を35%とする。	電話勧奨数 1,441件 集団健診申込数 120件 訪問勧奨数 181件 集団健診申込数 19件
結果説明と情報提供	特定健診受診者に結果を説明するとともに、栄養指導や運動指導を行い、健康意識を高め、翌年度の受診につなげる。	集団健診での特定健診受診者全員に案内通知を送付する。 健診結果説明会では、個人にあった栄養指導や生活習慣病予防につながるよう運動指導を行い、継続受診の必要性を説明する。	参加者を増加させる。 継続受診者を増加させる。	集団健診受診者 641人 説明会参加者（率） 484人（75.5%）
特定保健指導	保健指導対象者と面談等（生活習慣を振り返り目標を設定し、計画を作成する）により、生活習慣改善のサポートをする。	集団健診での対象者は、町保健師と栄養サポート紀南の栄養士が直営で保健指導する。 個別健診・人間ドックでの対象者は、白浜はまゆう病院に保健指導事業を委託する。	実施率を25%とする。	動機付け支援 対象者 133人 実施者 50人 (直営41人 委託9人) 積極的支援 対象者 53人 実施者 11人 (直営10人 委託1人)
特定健診異常値放置者受診勧奨事業	特定健診での異常値を放置している対象者に医療機関受診をうながし、生活習慣病の予防および重症化予防を図る。	特定健診の結果に異常値があるにも関わらず、医療機関受診が確認できない対象者を特定し、保健師が電話や訪問で未受診の理由や異常値に対する認識を聞き取るとともに医療機関での受診を勧める。	健診異常値放置者を減少させる。	平成26年度抽出分 対象者 124人 勧奨者 59人 (前年度勧奨者除く)
生活習慣病治療中断者受診勧奨事業	生活習慣病定期受診中断者の受診行動を支援し、適切な治療再開につなげることにより生活習慣病の重症化を予防する。	レセプト情報から医療機関での生活習慣病の受診歴があるが、その後の受診が確認できず、治療中断の可能性のある対象者を特定し、保健師が電話や訪問で未受診の理由を聞き取るとともに医療機関での受診を勧める。	生活習慣病治療中断者を減少させる。	平成26年度抽出分 対象者 37人 勧奨者 9人 (治療中の者除く)

績	達成状況	評価	
		平成28年度	平成29年度
平成29年度 個別通知数 5,172通 結果提供依頼送付数 463通 集団健診実施数 10回 委託個別医療機関 34ヶ所	平成29年度受診率 30.9% 平成28年度受診率 31.9% 平成27年度受診率 30.5% (法定報告速報値)	結果提供者が148人あり、個人通知の案内チラシや新聞へのチラシを見やすくした結果、受診率は1.4ポイント向上した。引き続き、健診の必要性を啓発する。	結果提供者が72人となり、76人減少したことが受診率1.0ポイント減少の原因と考えられる。
電話勧奨数 1,348件 集団健診申込数 176件	平成29年度受診率 30.9% 平成28年度受診率 31.9% 平成27年度受診率 30.5% (法定報告速報値)	未受診者への電話勧奨等を行った結果、受診率は1.4ポイント向上した。引き続き、健診の必要性を啓発する。	未受診者への電話勧奨の時間帯を工夫して行った。
集団健診受診者 593人 説明会参加者(率) 443人(74.7%)	平成28・29年度継続受診 集団—集団 401人 他健診・情報提供含む 462人(77.9%) 平成27・28年度継続受診 集団—集団 445人 他健診・情報提供含む 481人(75.0%)	説明会参加率は1.6ポイント向上した。引き続き、継続して健診を受診する習慣づけをうながす。	説明会参加率は0.8ポイント減少した。前年度の集団健診受診者のうち、今年度の集団継続受診者は減少したが、個別健診等を受診した割合は向上した。
動機付け支援 対象者 105人 実施者 29人 (直営27人 委託2人) 積極的支援 対象者 48人 実施者 8人 (直営8人 委託0人)	平成29年度実施率 23.6% 平成28年度実施率 33.3% 平成27年度実施率 27.1%	特定保健指導実施率が目標値を上回り6.2ポイント向上した。	特定保健指導実施率が9.7ポイント減少した。委託(個別健診・人間ドック)している特定保健指導対象者への参加勧奨を町も積極的に行う。
平成28年度抽出分 対象者 256人 勧奨者 39人 (前年度勧奨者除く) 平成27年度抽出分 対象者 133人 勧奨者 27人 (前年度勧奨者除く)	平成28年度抽出分精密検査 受診者 2人 平成27年度抽出分精密検査 受診者 2人	特定健診情報から1年分まとめて対象者を抽出しているため、勧奨した段階では治療中や数値改善している場合が多かった。	平成27・28年度抽出者を対象に勧奨したため、4人を受診につなげることができた。
平成28年度抽出分 対象者 15人 勧奨者 8人 (治療中の者除く) 平成27年度抽出分 対象者 33人 勧奨者 16人 (治療中の者除く)	平成28年度抽出分治療再開 した者 0人 平成27年度抽出分治療再開 した者 1人	レセプト情報から1年分まとめて対象者を抽出しているため、勧奨した段階では治療中や数値改善している場合が多かった。	平成27・28年度抽出者を対象に勧奨したため、1人を受診につなげることができた。

事業名	事業目的	事業内容	目標値 平成29年度末	実
				平成28年度
栄養教室	生活習慣病の予防や健康に関する正しい知識の普及により、住民自らが健康に関心を持ち生活習慣を改善し、健康の保持増進に取り組む。	特定健診受診者で検査値が異常値である場合は個別通知し、特定保健指導対象者には指導時に呼びかけや通知を行う。	参加者を増加させ検査値を改善させる。	会場数（実施数） 3ヶ所（各3回） 参加者（延べ人数） 33人（80人）
まちかど健康相談	身近に健康に関する相談ができる場をつくることにより、住民自らが健康に関心を持ち生活習慣を改善し、健康の保持増進に取り組む。	スーパー、小・中学校、イベント会場で、健康相談を実施する。	20～50代の参加率を35%とする。	会場数 8ヶ所 参加者 633人 20～50代 110人
健康づくり講演会	生活習慣病予防や身近な疾病等についての講演会の実施により、住民自らが健康に関心を持ち生活習慣を改善し、健康の保持増進に取り組む。	各種団体の依頼を受け、集会所や公民館等で医師・薬剤師・理学療法士・栄養士等を講師として健康講演会を実施する。講演後、健康意識に関するアンケートを実施する。	講演会の参加により、健康意識が高まった人の割合を増やす。	会場数 14ヶ所 参加者 359人 アンケート回収数 285枚 健康意識が高まった数 222人
大腸がん検診受診勧奨	大腸がん検診の受診率を向上させる。	年度当初に、40～74歳までの住民登録者にがん検診の案内通知を送付する。 40歳の国民健康保険加入者全員に電話による受診勧奨をする。	受診率を18%とする。	案内通知数 10,981通 勧奨通知数 8,757通 電話勧奨対象者 69人 通話数 49人
歩く歩くウォーキング事業	効果的なウォーキング方法を身につけ、自らの健康を考えて自主的に運動することにより、健康を維持増進し生活習慣病を予防する。	ウォーキング講座、ウォーキング大会等を開催する。	新規参加率を40%とする。	ウォーキング講座参加者 71人 ストレッチ講座参加者 45人 ウォーキング大会参加者 195人
ジェネリック医薬品利用勧奨	ジェネリック医薬品の使用促進により医療費を抑制する。	ジェネリック医薬品に切り替えた場合の自己負担軽減について、年2回通知を行う。	数量ベース普及率を60%とする。 国の目標は普及率を70%以上とする。	通知数 735通

績	達成状況	評価	
		平成28年度	平成29年度
平成29年度 会場数（実施数） 2ヶ所（各3回） 参加者（延べ人数） 47人（97人）	平成28・29年度 継続受診 19人 検査数値改善 9人 平成27・28年度 継続受診 12人 検査数値改善 7人	参加者は減少しているが、平成29年度からアンケートを開始し、健康に対する意識の変化を確認する。引き続き、生活習慣改善をうながすために参加を啓発する。	参加申込みのない地域があり開催場所は1ヶ所減ったが、参加者は増加した。
会場数 5ヶ所 参加者 269人 20～50代 142人	平成29年度参加率 36.8% 平成28年度参加率 17.4% 平成27年度参加率 33.8%	雨で中学校での健康相談が開催できなかったため、20～50代の参加率も減少した。	雨や台風により、健康相談の開催できない日があったため、参加者は減少したが、20～50代の参加率は向上した。
会場数 14ヶ所 参加者 319人 アンケート回収数 262枚 健康意識が高まった数 205人	平成29年度健康意識が高まった割合 78.2% 平成28年度健康意識が高まった割合 77.8% 平成27年度未実施	平成28年度からアンケートを開始したため、健康意識が高まった割合の比較はできないが、約80%が健康意識が高まったと答えていることから、引き続き講演会を開催する。	アンケート結果から健康意識が高まった割合は微増していることから、引き続き講演会を開催する。
案内通知数 10,658通 勸奨通知数 5,562通 電話勸奨者 23人 受診者 4人	平成29年度 受診率 10.6% 保健センター回収分 53件 巡回バス回収分 73件 平成28年度 受診率 10.3% 保健センター回収分 28件 巡回バス回収分 43件	保健センターや巡回バスで大腸がん検診検査セットを回収することとしたが、目標に届かなかった。引き続き、広報・パンフレットを工夫して受診率を向上させる。	保健センターや巡回バスで大腸がん検診検査セットの回収件数は増加しているため、広報・パンフレットを工夫して受診率を向上させる。
ウォーキング講座参加者 40人 ストレッチ講座参加者 21人 ウォーキング大会参加者 190人	平成29年度新規参加者（率）48人（19.1%） 平成28年度新規参加者（率）84人（27.0%） 平成27年度新規参加者（率）77人（23.1%）	大会のウォーキングコースを新規コースにしたため、新規参加者が3.9ポイント増加した。引き続き、魅力ある新規コースを開拓して新規参加者を増加させる。	参加申込みは定員の1割オーバーであったが、特に新規申込者のキャンセルが多かった。引き続き、魅力ある新規コースを開拓して新規参加者を増加させる。
通知数 799通	平成29年度普及率 65.7% 平成28年度普及率 62.8% 平成27年度普及率 57.1%	ジェネリック医薬品差額通知を6月と12月に送付しており、普及率は5.8ポイント向上した。引き続き、ジェネリック医薬品の医療費抑制効果を啓発する。	ジェネリック医薬品差額通知を6月と12月に送付しており、普及率は2.9ポイント向上した。引き続き、ジェネリック医薬品の医療費抑制効果を啓発する。